



<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>現在担当しているいずれの授業も、保育者としての資質・力量を形作る要素のひとつである、保育・教育に関する知識や技能を、確実に身に付けるということを目指している。その際、その知識・技能の制度的・歴史的・理論的背景を併せて学習することにより、学生一人ひとりの中に自分なりの教育観・保育観が打ち立てられることを目指している。</p> <p>しかし、そうした知識や技能をただただ習得するだけでは不十分である。なぜなら、保育・幼児教育の現場においては、子どもたちの突発的な行動に臨機応変に対応する力量も、同時に必要とされるからである。そこで本授業では、知識の定着に加えて、それとは正反対に、正解のない議論をし合うこと、学生オリジナルのアイデアを出し合い発表することで、学生が自分なりの考えを深め蓄積してゆくことも意識して展開した。</p> <p>さらに、近年、子ども・子育て家庭、保育・幼児教育現場をめぐるさまざまな社会問題が起きているが、学生らは将来、それらの問題の解決の一助を担うことになる。そこで本授業では、こうした社会問題を授業の教材として多数取り上げた。</p> <p>平成28年度の自己評価としては、上記のような教育目標をおおむね達成できたと考えている。知識や技能の定着という点では、重要事項の暗記だけに終始しないよう、具体例を挙げたり中学・高校で受けた授業を振り返ったり、学生たちにとって飲み込みやすいように説明を工夫した結果が表れたと考えられる。また、現代の子どもをめぐる社会問題の理解という点でも、学生にとって身近な題材を授業の中で積極的に取り上げ、学生同士での議論の機会を設けたことによって、学生の興味関心を引き出し、課題解決能力が身に付いたと評価できる。</p>																
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>昨年度の授業評価に対応した改善点として、授業に意欲的に取り組む学生と、そうでない学生とのギャップを埋めるべく、個別的な対応を多くしたことが挙げられる。意欲的な学生については、追加課題を与え、より高い到達点を目指せるようにした。また、そのアドバンテージを積極的に評価することで、ますますその意欲を高めることができたように感じる。その一方で、学習意欲に欠ける学生・理解力に難がある学生については、個別に対応し補習を行ったり授業内で積極的に声がけをし達成できたことを評価したりすることで、ほとんどの学生が途中で投げ出すことなく学習目標を達成することができたと考えられる。</p> <p>昨年度に引き続き、担当する各授業に対し、毎回の学習内容つまり「この授業では何を学んだのか」という授業のポイントを、口頭でも配布プリント上でも示した。加えて、授業の初めに、前回の学習内容を振り返るための時間を確保した。それにより、授業のながれやねらい、学習のポイントが学生によりはつきりと伝わったと評価できる。</p> <p>その一方で、今年度は、例年実施している授業に対する「感想シート」の記入・提出を行う時間が確保できなかった。「感想シート」の活用によって、学生の授業に対する意欲はさらに高めることができると考えられるので、来年度以降、授業の展開を工夫し「感想シート」のための時間を確保するようにしたい。</p>																
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>現在担当しているすべての授業で、特定の教科書は使用せず、学習用プリントを作成・配布して授業を展開している。</p> <p>プリントの形式は、重要語句を学習する單元においてはドリル（穴埋め）方式、議論によって学生の考えを深めるような單元においては、上記「感想シート」を活用し学生の回答や考えを記載し議論の進行の一助となるような方式をとるなど、学習内容によって変化を持たせている。</p>																
<p>5 学生の指導（課外活動・厚生補導等）</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>2014年5月～現在</td> <td>吹奏楽同好会（2015年4月より吹奏楽部）顧問</td> </tr> <tr> <td>2014年12月</td> <td>深川市子育て支援センター事業「わくわく広場」（於・深川保育園）の見学・担当者に対するききとり調査の実施（ゼミ生5名を引率）</td> </tr> <tr> <td>2015年1月</td> <td>海外短期研修・事前研修の実施（農学ビジネス学科1年生2名）</td> </tr> <tr> <td>2015年9月</td> <td>「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏（吹奏楽部員12名を引率）</td> </tr> <tr> <td>2015年12月</td> <td>拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科・保育学科学生を対象としたアンケート調査「短大生の結婚・出産・子育てに関する意識調査」の実施（ゼミ生10名とともに実施）</td> </tr> <tr> <td>2016年4月</td> <td>海外短期研修・事後指導（レポート添削）の実施（農学ビジネス学科2年生3名）</td> </tr> <tr> <td>2016年7月</td> <td>「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏（吹奏楽部員9名を引率）</td> </tr> <tr> <td>2016年10月</td> <td>第7回「ふかがわ街ぶら」にて演奏（吹奏楽部員8名を引率）</td> </tr> </table>	2014年5月～現在	吹奏楽同好会（2015年4月より吹奏楽部）顧問	2014年12月	深川市子育て支援センター事業「わくわく広場」（於・深川保育園）の見学・担当者に対するききとり調査の実施（ゼミ生5名を引率）	2015年1月	海外短期研修・事前研修の実施（農学ビジネス学科1年生2名）	2015年9月	「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏（吹奏楽部員12名を引率）	2015年12月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科・保育学科学生を対象としたアンケート調査「短大生の結婚・出産・子育てに関する意識調査」の実施（ゼミ生10名とともに実施）	2016年4月	海外短期研修・事後指導（レポート添削）の実施（農学ビジネス学科2年生3名）	2016年7月	「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏（吹奏楽部員9名を引率）	2016年10月	第7回「ふかがわ街ぶら」にて演奏（吹奏楽部員8名を引率）
2014年5月～現在	吹奏楽同好会（2015年4月より吹奏楽部）顧問																
2014年12月	深川市子育て支援センター事業「わくわく広場」（於・深川保育園）の見学・担当者に対するききとり調査の実施（ゼミ生5名を引率）																
2015年1月	海外短期研修・事前研修の実施（農学ビジネス学科1年生2名）																
2015年9月	「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏（吹奏楽部員12名を引率）																
2015年12月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科・保育学科学生を対象としたアンケート調査「短大生の結婚・出産・子育てに関する意識調査」の実施（ゼミ生10名とともに実施）																
2016年4月	海外短期研修・事後指導（レポート添削）の実施（農学ビジネス学科2年生3名）																
2016年7月	「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏（吹奏楽部員9名を引率）																
2016年10月	第7回「ふかがわ街ぶら」にて演奏（吹奏楽部員8名を引率）																
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>																

研 究 業 績				
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	<p>近年、教員の業務の多忙化とそれにもなう精神的消耗・早期退職が社会問題となっている。その一方で、教員は現在推し進められている教育改革の担い手として、またそのターゲットとして重要な立場に置かれている。こうした状況のもと、教員が日々どのような困難を抱えているのか、またそれを解決しながらいかにして教育活動を行っているのか、それに対する実証的な研究はそれほど多くはない。</p> <p>本研究では、教員文化論をベースに、教員集団をジェンダーや世代などをもとに多層的に捉え、一枚岩ではとらえきれない教職の困難性を実証的に明らかにし、困難の乗り越えの展望を提示することを目的としている。</p> <p>研究の手法として、アンケート調査とインタビュー調査とを併せて実施することで、教員文化の全体像を把握すると同時に、その内部をより詳細に記述することが可能となっている。これにより、立体的な実像に迫ることを目指している。</p>			
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	<p>「北海道における教育専門職（保育士・教員）のキャリア形成に関する社会学的考察」 これまでに行った、全道女性教職員を対象としたアンケート・インタビューのデータの分析を継続し、教職の困難性をジェンダーの視点から記述する研究として、論文等の形にして示す予定である。</p> <p>また、これに加えて、昨年度より加わっている文部科学省科学研究費の分担研究として、今年度は「北海道における教師の労働・専門職性に関するフィールドワーク調査」をいくつか実施した。性別や年齢、職位が異なる教員らへの聞き取り調査により、上記大規模調査で明らかになる全体的な傾向を、詳細に掘り下げることができると考えている。</p> <p>さらに、幼児教育・保育に携わる担い手（幼稚園教諭・保育士）に関わる課題として、幼児教育推進体制構築事業が各自治体で現在取り組まれようとしている中、北海道内の幼児教育・保育施設やその担い手に求められるものがどのように変化しつつあるか、上記小中高教員研究による示唆を参考に、調査に着手する予定である。</p>			
3 研究助成等 (主要5件程度)	<p>(1) 文部科学省科学研究費 (課題番号 15H03490) 基盤研究(B)「グローバル化下の教師 —生活と意識・専門職性の変容—」(研究代表者：油布 佐和子、研究期間：平成27年度～29年度) 研究分担者</p> <p>(2) 学内 なし</p> <p>(3) 学外 なし</p>			
4 資格・特許等 (主要3件以内)	<p>高等学校教諭 第一種普通免許状 (地理歴史)</p>			
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
(著書)				
実践事例 一歩進んだ「学校支援」をめざして —東京・三鷹市 NPO 法人夢育支援ネットワークの SA (スタディ・アドバイザー) 活動の取り組み	共著	2008年3月	新教育課題研究会編『新教育課題の要点と実践』追録第50号～51号、「第Ⅱ編 学校経営上の諸課題・学校支援ボランティア」	<p>東京都三鷹市に2003年に設立された「NPO法人夢育(むいく)支援ネットワーク」の学習支援ボランティアのコーディネーター事業のシステムやノウハウを紹介したテキストである。その最大の特徴は、特別な知識や専門性を持たない地域住民や児童生徒の保護者も学習支援に関わることができる SA (スタディ・アドバイザー) の取り組みにある。</p> <p>こうした学習支援のシステムは、地域住民が、学校を介して自分たちの住む地域に対して主体的に関わる契機となると同時に、学校にとっても、地域との連携によって、授業実践のさらなる充実が期待できる。</p> <p>このシステムは、現在そのニーズが高まっている地域住民・保護者と学校・教員の協働・連携に有意義なアイデアを示すものといえる。</p>
(学術論文)				

<p>公教育再編過程下の「学校・教員マネジメント」に関する議論の変遷について——1990年以降の中教審答申を中心に——</p>	<p>単著</p>	<p>2009年6月</p>	<p>北海道大学大学院教育学研究院『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第107号</p>	<p>本論文では、1990年代以降の教育改革を、その推進主体に着目して時系列的に追い、教育政策の変遷を整理することを課題とした。 その結果、1980年代後半の臨教審答申が「学校のスリム化」と、カリキュラム改革（いわゆる「ゆとり教育」）とを強力に牽引しただけでなく、教員個人の力量形成の推進と教員集団の再編を促す学校組織改革といった教員制度にも影響を与えているということが改めて浮き彫りになった。</p>
<p>小学校女性教員の仕事と生活をめぐる困難とその「乗り越え」——教職アイデンティティに関する議論をてがかりに——</p>	<p>単著</p>	<p>2010年6月</p>	<p>北海道大学大学院教育学研究院『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第112号</p>	<p>本論文では、女性教員の仕事上の困難の実態と構造を把握することを課題とした。 アンケート・インタビュー調査の分析の結果として、教員が感じている「仕事の悩み」とは、児童・生徒の教育活動からの逸脱行動の増加を背景として、そうした状況への対応が、教員が理想とする豊かな授業実践や教材研究の実現を阻んでいることが、“自分がしたいと考える教育活動ができない”という悩みへとつながっていることが明らかになった。</p>
<p>〈進路指導——学習指導・生徒指導〉の下方スパイラルの困難化に関する予備的考察</p>	<p>共著</p>	<p>2014年3月</p>	<p>北海道情報大学『北海道情報大学紀要』第25巻第2号</p>	<p>今日、「学校から企業への移行」が不安定化することともなっており、とりわけ高校では、進路指導が困難化すると同時に重要視されている。 本稿は1960年代以降の社会情勢を追いながら、進路指導の困難は、学習指導・生徒指導の困難性と連動しているという仮説を立ち上げ、検討したものである。</p>
<p>教員の職場における「ジェンダー・バイアス」——女性教員の職務配置のあり方に着目して——</p>	<p>単著</p>	<p>2014年6月</p>	<p>北海道社会学会『現代社会学研究』第27号</p>	<p>本論文では、教職の職務配置の論理に着目し、ジェンダー・バイアスが生成・維持される仕組みを、教員集団に焦点化することで明らかにしようとした。 その結果、職務配置にジェンダー・バイアスが認められるにもかかわらず、教員らは、自身の職場を「ジェンダー・バイアスのない職場」と評価していることが明らかになった。こうした実態と認識のずれを生じさせるのは、職場のジェンダー・バイアスは、家庭責任を持った女性教員に対する「配慮」の結果として理解されていたことに由来するということが明らかになった。</p>
<p>(学会等発表)</p>				
<p>高等教育における学生指導の現状</p>	<p>単独</p>	<p>2015年11月</p>	<p>2015年北海道合同教育研究全道集会(第19分科会)</p>	<p>本発表は、本学で発表者が日々行っている学生指導における工夫や困難を題材に、現在の高等教育における学生指導の課題を明確化しつつ、その解決方法について考察したものである。 同時に、こうした学生指導の方策の変容は、教員の労働における質・量的変化をもたらすことが指摘できる。教員の多忙という問題の、解決のしにくさを表しているといえる。</p>
<p>保育者養成校におけるゼミナール活動実践を通じた学生の学びの展開と課題——子育てという営みを再考する試み——</p>	<p>単独</p>	<p>2016年3月</p>	<p>北海道教育学会第60回研究発表大会</p>	<p>本発表では、本学で発表者が今年度実施したゼミ活動を題材に、学生の学習活動の深化と展開について考察したものである。 2015年度より本格化した地域子育て支援事業についての学習、実際の担い手に対するインタビュー調査を通じて、学生が子どもや子育てについて自身の持つ既成の概念を捨象し、客観化する過程を示した。</p>

北海道教育庁による「幼児教育アドバイザー」施策の課題と展望		単独	2017年3月	北海道教育学会 第61回研究発表大会	2006年の教育基本法の改訂以降、幼児教育に求められる役割はこれまで以上に高まっている。そうした状況のなか、幼稚園教育の担い手の力量形成は、取り組むべき重要な課題のひとつに位置づいている。 本発表では、北海道で2016年度より開始された幼児教育推進体制構築事業のひとつである「幼児教育アドバイザー」の派遣・育成事業について、小・中・高等学校に焦点化されてきた「教員の資質・力量向上」の議論を参照することによって、その課題と展望を提示した。	
研究業績（過去3カ年分）				国際的活動の有無	社会的活動の有無	
著作数	論文数	学会等発表数	その他			
0	2	7	0	無	有	
学 内 運 営 業 績						
1 役職、各種委員会等 (主要10件程度)	2014年4月～2016年3月		学生委員会 委員			
	2014年4月～2016年3月		地域・国際交流委員会 委員			
	2016年4月～2017年3月		学生・地域国際交流委員会 委員			
	2016年4月～2017年3月		図書委員会 委員			
	2016年4月～2017年3月		自己点検・評価委員会 作業部会 委員			
学 外 活 動 業 績						
1 本学以外の機関(公的機関・民間団体等)を通しての活動 (主要10件程度)	2006年4月～2008年3月		NPO法人夢育支援ネットワーク(東京都・三鷹市) 運営事務局スタッフ			
	2009年4月～現在		札幌市立幌北小学校スクールバンド同好会 指導スタッフ			
	2014年11月		北海道札幌月寒高校 大学模擬授業(教育学)			
	2015年4月～現在		せいとく介護こども福祉専門学校 教育課程編成委員会委員			
	2015年11月		北海道札幌月寒高校 大学模擬授業(教育学)			
	2016年9月		北海道滝上高校 職業別分科会・講義(教育)			
	2016年10月		深川市市民公開講座・講師(テーマ「男らしさ」「女らしさ」って何だろう)			
	2016年12月		北海道旭川南高校 出張講義(教育学)			
	2017年2月		札幌新陽高校 進路ガイダンス・講義(教育学)			
2017年3月		旭川明成高校 職業説明会・講義(教育)				
2 学会・学術団体等の活動 (主要10件程度)	日本教師教育学会 会員					
	日本教育社会学会 会員					
	日本教育学会 会員					
	日本労働社会学会 会員					
	北海道教育学会 会員					
	北海道社会学会 会員					
	女性労働問題研究会 会員					
	北海道ジェンダー研究会 会員					